常務理事会　議事録
日　　時　　2023 年 12 月 6 日
場　　所　　渋谷区スポーツセンター第3会議室
注　　記　　議長:松村、書記:成田
出席者(敬称略):
近藤(副会長)、松村(世田谷)、池澤(町田)、小杉(江戸川)、小野寺(千代田)、澤口(青梅)、
齊藤(西東京)、飯泉(渋谷)、堀(千代田)、有本(目黒)、阿部(東久留米)、西村(町田)
富樫(高体連)、齋藤(高体連)、福島(葛飾)、佐藤(関東学連)、松田(関東学連)、中村(関東学連)、鈴木(関東学連)、黒田(関東学連)、成田(会計)

●報告事項
【理事長】
1.　中央区ア協の役員交代のお知らせ
　・会長　笠間長策　様、　理事長　和田智恵子　様に交代となりました。

2.　Bumb のインドア大会【初回】 設営立ち合いメンバー
　・12/23 の関東学連インドアの設営立ち合い
　　8:45 集合　近藤、松村、小野寺、池澤、小杉、澤口、有本

3.　小金井公園弓道場の運営管理問題の改善
　・現在、初心者指導・認定業務が停止中。
　以下の点について調査・検討中・・・まとまり次第、保坂副会長と相談の予定
　→12/8 に小金井で　聞き取り実施予定(近藤、松村)であり、次回理事会で報告する。
　① 毎月行われる貸切抽選頻度
　② 団体のレベル別による貸切予約開始日
　③ 射場利用認定証の発行基準
　④ 初心者指導員の設置継続
　⑤ 射場管理の責任・費用の分担

4.　11 月までの競技会収支　　資料①
　→夢の島の大会に現在的紙代は含まれていない。参加費の見直しについて
　　総会で検討を進める予定。

【事務局】
1.　全ア連事務局長会議の報告(11/25)　　資料②
　→「文書交換システム」:　先月より利用可能となっている。文書のやり取りが、
　　競技部と会員登録で必要になるため、事務局長から詳細について各担当へ連絡する。

【競技部会】
1.　12/24 夢の島アウトドアインドア大会開催についてメール協議していただき、
　開催決定、要項を発信しました。

2.　東京都町田インドア大会要項を配信しました。

3．都室内の審判員募集にご協力いただきありがとうございました。

【普及育成部会】

1．　2023_JSPO 公認指導者養成講習会（アーチェリーコーチ1）終了
　11 月 12(日)、18(土)、23(木祝)で、江東区 BumB 東京スポーツ文化館で実施
　51 名全員が全講習・考査を修了、全員合格となった。

【強化部会】

1．　TEAM 東京　国体強化事業
　・11 月 10 日(金)～12 日(日)　2023 年度秋季強化合宿（福岡県北九州市）

　※12 月の予定
　・12 月 3 日、10 日、24 日　強化夢の島冬季大会・感謝射会実施

2．　14期生トップアスリート発掘・育成事業
　・11 月 5 日(日)　第 17 回練習会（光が丘公園弓道場）
　・11 月 19 日(日)　第 18 回練習会（日本体育大学）

　※12 月の予定
　・12 月 3 日(日)　第 19 回練習会（日本体育大学）
　・12 月 19 日(日)　第 20 回練習会　2023 年度東京都室内選手権大会出場
　　→最終事業

【審判部会】

1．2023 年度　全国　指導者・審判ルール研修会（11/25,26　佐賀）　資料③
　祝迫さんに出席していただいた。
　→資料③末尾の事故事例で防矢ネットが機能しなかった例が紹介されている。
　　事例を読み対策の参考にしてください。

2．NT 選考会に審判員を動員しました。（以下敬称略）
　11/2　2名（有本、牧内）
　11/3　6 名（有本、柳、進藤、池澤、松村、澤口）
　11/4　5 名（有本、柳、松村、進藤、澤口）

3．審判専門委員1名を増員
　11/15 付で委嘱状を新宿区ア協の加来剛さんに発行しました。

4．フィールドの競技上の注意を一部変更
　12 ユニットにかかる時間を明記しました。（資料⑩参照）
　→11/12　第6回フィールド大会で試用した。
　　（競技時間的にスムーズに進行できていた。今後も様子を見ていきたい。）

5．2023 年度新規2級・3級公認審判員養成講座の開催会場を3月20日（水・祝）で
　Bumb　研修B会議室を予約した。

6．11 月 12 日　JSPO コーチ 1 養成講習会
新規 3 級審判員　11 名を申請する。

7．小金井タイマーの不良発生
・12 月 3 日小金井オープンでタイマーのコネクター抜けない不良が生じ、
そのままにしている。
→対策として三八五運送に保管されている予備のタイマーとの取り換え、
当該タイマーの修理をすることとした。

【総務部会】
1．2024 年度の理事会等の日程の確定（飯泉）　資料④

2．今年度の全ア会員証の発行が終了（福島）
11 月 27 日　全ア連と都ア協に 3 回目の会員登録費の入金致しました。
これにて今年度の全ア会員証の発行が終了となりました。
→都ア協の会員証の発行は、年度終わりまで継続して実施します。

【都高体連】
1．11 月の終了行事について
①　11/3　第 2 回 70mR 大会　＠駒沢公園第一球技場
②　同日　指導者講習会　　講師：穂苅美奈子先生
③　同日　全ての資材・備品の搬出（四商、渋谷区ア協、三八五運送保管）

2．　12 月の行事予定について
特になし

【関東学連】
1．一級審判派遣のお礼
・高柳杯(11/11) に澤口さんを競技委員長として

2．代交代の挨拶
第 66 代
委員長：　　中村未彩季さん（法政大学）
副委員長：　黒田零音さん（日本大学）
副委員長：　鈴木駿介さん（中央大学）
→イアンセオ、G メールは黒田さんが担当する。

3．学連インドアの準備状況（12/23 設営）
・Bumb メインアリーナでの射場設営設計図　資料⑤
・後方に防矢ネットを吊るすための S カン 50 個
→都ア協の資材と一緒に管理
フロアーシートの購入が必用。 1.8m×20m2 本を購入検討する。

・WIN ブース(メンテナンスのみ)設置
　→場所は二階入口手前左に設置予定

●協議事項

【副会長】
◎競技会運営の審議について
1．今後の審議予定
　① ブロック制の維持　(1)11/1(水) 済み
　② 公認協議会会場の選定
　　・ターゲット、フィールド、インドア会場　＊駒沢第一問題
　③ 直轄での公認競技会の運営方法
　④ 都ア協理事の関与について　ほか

　① イアンセオの担当部会について(記録の整理)　(2)12/6(水)
　　記録のため競技部会　規則の変更はしないこととした。

　　次項以降は 2 月理事会で協議することとなった。
　② 各ブロックにおけるラインジャッジの確保
　③ 競技会役員の育成

　④ 個人エントリーへの移行　ほか

　① 必要審判・役員数の確認　(3)2/7(水)
　② 夢の島射場のあり方(直轄、ブロック制の比率等)
　③ 競技会参加費と役員の報酬等の改定等

　審議内容の見直しとまとめ　(4)3/6(水)
　　※ 総会報告案文の調製

【理事長】
1．今年度インドア大会後の畳放出について
　① 12/24 学連インドア後
　　・学連分　22 枚・・・武蔵大学(12/25 全日または 12/26AM 受取)
　　8 枚・・・横浜市立大学(1/15AM 受取)
　　・都ア協分　15 枚・・・墨田
　　15 枚・・・未定

　② 2/4 東京インドアオープン後
　　・都ア協分　60 枚・・・未定
　　→1 月の理事会招集時にて各協会に希望の確認を進める。

2.　2024 SHIBUYA CLASSIC 開催について　資料⑥

①　7/6～7/7 での開催希望（7/5 設営？）

②　競技日程の確認・調整

③　海外選手 20 名の受入れ

④　費用面の再検討（的紙・椅子・テントの負担）

→渋谷区アーチェリー協会、渋谷アーチェリー主体での運営をお願いする。

→現スケジュールであれば学連フィールドと日程が重なるのが、
学連フィールドの日程は調整していく。

※上記を踏まえ渋谷アーチェリーとの協議を進めていく。

3.　夢の島公園アーチェリー場でのテスト撮影（アメニス　上田様）　資料⑦

・東京都と事業団で行っている「映像配信システム事業」という事業があり、
今年度、各施設でテスト撮影を実施している。
アーチェリー場でも撮影を行いたく、12 月の大会か 3 月の大会で、
撮影に協力は可能かの問合せ有り。

テスト撮影には協力していくが、以下の点の確認を行う。

①　どの様なイメージ画像を作成するか

②　個人情報はどの程度でることになるか

③　画像の権利

④　配信期間

⑤　テスト撮影の対象試合数

※選手への事前説明が必要となるため、募集要項に撮影の旨記載しておく必要がある。
そのため撮影する場合は、3 月以降の大会が適当と思われる。

4.　都ア協開催の競技会における審判員等の待遇改善の要請について（港区）　資料⑬

→競技会の運営はボランティアベースでの実施のため、謝金での対応する。
よって、本要請はお断りすることとした。

【事務局】 特になし

【競技部会】

1.　東京インドアオープン参加賞バッジの取り扱いについて（松村）　資料⑧

・バッジの原価高騰が続いている。毎年、年度・色が違うものを作成しているので、
まとめて作成して、原価を下げる事も出来ない。

・過去 2 回、残余バッジのロスを防ぐ為に、参加人数確定後にバッジの送り出しを
していたが、都ア協の送り出し、エントリー担当者の選手への再仕訳の手間が
多大であるのは否めない。

→バッジを 200 個作成し、希望者に 200 円程度で限定販売したい。

→希望者にパスマーケットで販売する（先着順で発売）。配布は大会会場で行う。
200 個作成し、値段は 200 円とする。
パスマーケットで売り切れないものは、大会会場で販売する。

2．来年度競技予定案　資料別途

・夢の島予約表(231123)　資料⑨

① 関東高体連の記載は東京高体連と修正する。

② 5 月 6 日の午後は 5 月 4 日の王座選考会の予備として学連利用することが承諾された。

③ 9 月 15 日：高体連と都ア協の事業が被っているので相談し調整を進める。

◎来期競技会のスケジュールは以下を考慮して検討する。

① 駒沢で開催していた大会を他会場に移動する。

② 光ヶ丘と小金井で 50・30M の試合を増やす
（小金井の大会は第1週か第 2 週、 光ヶ丘は、第 3 か 4 週に設定する）。

③ 土曜に試合を設定してもよい。

④ 来年度競技予定は、1 月の理事会で報告する（必要に応じてメールで相談する）。

3． 都室内準備について

・役員集合時間：15 日 18：20、 16，17 日 8：45

資材は 18 時到着予定

競技委員長：近藤さん DOS：小野寺さん 副 DOS：小杉さん 審判長：検討中

前日準備 学連 10 名 葛飾 7 名

※室内履き、軍手、ワラくずの不着しにくい服装が必要

4．都体協主催「令和5年度体育大会委員会」(12/13)に出席します

【普及育成部会】

1． 2024 年度 JSPO 公認指導者養成講習会

全ア連から、来期の開催の調査があり

→来期東京都のコーチ 1,2 は開催無しとしたい

→本年実施したため、来期は開催しないこととした。

【強化部会】 特になし

【審判部会】

1．フィールド用競技上の注意の検討　別紙⑩

→案の通り、競技進行時間についての記載を追加することとした。

2．インドア用競技上の注意 簡略版（案）の検討　別紙⑪

① インドアの競技上の注意で ABCD の的位置について説明は行わないこととした
→競技規則の一部である事項の説明は行わない。

② 「5」の記載は、案の通り「用具故障等による補充矢を行射する時間は
3射3エンド以内とします。」とする。

3．1 級公認審判新規認定講習会・試験の開催について

→参加費および交通費、宿泊費の都ア協の負担について承認した。

→鏡文を作成して、配信することとした。 理事長が先決対応し、
次回理事会で報告する。

【総務部会】

1.　2024 年度　会員登録申請しおり（福島）　資料⑫

→変更事項を加筆しましたのでご確認いただきたく存じます。

① 案の通り進めることとした。（口座については対応が間に合えば変更する）

② 都ア協の申込書の表の構成について、可能であれば 1 項目 1 セルに変更する。

【事務局】　特になし

【都高体連】 特になし

【関東学連】　資料⑭

1.　イアンセオ機材の貸出しについて（12/23, 24）

・学連インドア（Bumb）開催時のイアンセオ機材の貸し出しを希望

→貸出し承認した。

・小金井公園射場の問題点（近藤）

→よく読み意見があれ連絡ください。

資料②

2023/11/25　13：30 より
全ア連主催全国事務局長会議（都ア協口頭報告用）
東京都参加者：阿部

【内容】
★年間計画
　年間予定については、年明け頃公開
　・全日社会人ターゲット
　→部門を増設。R 6 は壮年女子、コンパ壮年男子。R7 以降 50 歳以上、60 歳以上、など参加者の幅を広げる。２日間で収まるよう検討中

　・全日社会人フィールド
　→現在フィールド会場については、会場自体の閉鎖などにより検討中。アンケート実施予定

　・全日室内選手権
　→九州がこけら落とし予定。順番については未定（関東と九州で調整中）

★1 月 WA ルール改正春頃公開予定

★公認アーチェリー指導者資格制度について
講習会等については、アンケートや HP などで受講希望者を確認（希望調査を行う者が少ないなら実施の意味がないため。
若い世代から確保、セミナーや事業をおこなうなど検討したい

★文書交換システムはじまる 11/27 より
メールで送受信していた申請書などのやり取りがこのシステムで行われる。
※都ア協では各種担当者がいるため、個々にパスを送付？常任理事で共有？それとも事務局で割り振るか。（個別に相談）
文書ダウンロードで開封が全ア連でわかるので、誤作動による誤認を防止するため、最小限にとどめたい。

★R5、４から HP を更改している
TOTO のくじ助成によるもの
助成金を使っているため、報告書作成のためアンケートを実施する

意見質問事項

東京都の要望については、個別に回答とのこと（事前メール送付済み）

→田中理事長、岡野事務局長、砂森総務部長には個別に詳細は話済み

・全ア連事業日の公開を早めにしてほしい→事業がかぶる

・全ア連主催試合については、都道府県団体で取りまとめをする形ではなく、
全ア連で行ってほしい→こちらでは公認記録はわからない

・年間での損益報告ではなく、事業毎の損益を公開してほしい

→赤字事業が多いことを責めるわけではなく、実情を知ってもらい、うまくやっていきませんかの旨

（事 務 連 絡）
2023 年 11 月 20 日

加盟団体各位
事務局長会議　参加者各位

（公社）全日本アーチェリー連盟
事務局　岡 野 悟 郎

2023 年度 全国事務局長会議 オンラインでのご参加方法

日頃より本連盟の事業にご協力を賜り、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。
さてご連絡しております通り、11 月 25 日（土）に、全国事務局長会議を開催いたします。
会場へのご出席、オンラインでのご出席につきまして、以下の通りご案内いたします。

【開催日等】

開催日時	2023 年 11 月 25 日（土）　13 時 30 分～16 時 00 分（予定）
対象者	加盟団体の事務局長様（ご出欠の回答にご記載いただいた方）

【会場へのご出席】

開催場所	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE　3 階 会議室 2 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2　TEL：03-6459-2812（連盟事務所） （地下鉄銀座線 外苑前駅、JR 線千駄ヶ谷駅、都営大江戸線・国立競技場駅）
受付	13 時 00 分より、ビル 1 階で「入館証」をお受け取りになり、 エレベーターで　3 階 会議室 2　へお進みください。 ビル内は全館禁煙となっておりますので、予めご了承ください。

【オンラインでのご出席（Zoom）】

会議は「Zoom」を利用してオンライン形式にて行います。
会議開始の 15 分前（13 時 15 分）よりご入室いただけます。
下の URL をクリックしてご入室ください。↓
https://us06web.zoom.us/j/85282489479?pwd=Vrf7eUYzktbjoZ9kq3o5DWK2TwY65c.1
（　ミーティング ID　852 8248 9479 ）
（　パスコード　582334　）

お名前は「加盟団体 ＋ お名前（フルネーム）」でお願いいたします。
（ 例 ： 東京都　新宿太郎 ）
会議中は、マイクはミュートにしてください。
本会議の録音・録画等は禁止とさせていただきます。

【議　題】（時刻は予定）

	出席確認等	13 時 30 分
1	開会あいさつ　（理事長）	13 時 35 分 ～
2	中長期期基本計画 ／	13 時 40 分 ～
3	スポーツ団体ガバナンスコード	13 時 50 分 ～
4	2024 年度事業計画（案）	14 時 00 分 ～
	休　憩	14 時 30 分 ～ 14 時 40 分
5	指導者 新資格制度について	14 時 40 分 ～
6	ナショナルチーム報告	15 時 10 分 ～
7	文書交換システム	15 時 15 分 ～
8	ホームページアンケート	15 時 25 分 ～
9	加盟団体からの質問・意見交換	15 時 30 分 ～
10	閉会あいさつ	15 時 45 分 ～

（時間や議題は進行によって変更になる場合があります）

【配布資料】

事前にお配りできるものは、追って送付します。
また、会議後に、あらためてまとめて送付いたします。

【ご出欠回答状況】

会場出席（13）

北海道、青森県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、愛媛県、学ア連

オンライン出席（29）

岩手県、宮城県、山形県、茨城県、群馬県、千葉県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、三重県、大阪府、鳥取県、島根県、岡山県、山口県、香川県、徳島県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、高体連

ご欠席（4）

滋賀県、広島県、長崎県、沖縄県

回答なし（3）

秋田県、福島県、岐阜県

ご出席等に変更がありましたら、事前にご連絡ください。
当日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上

全日本主催競技会･講習会･イベントの開催予定（2024年度以降）

（公社）全日本アーチェリー連盟 競技部・普及部

区分	行事名	2024年度開催予定期日	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
大会	第53回全日本ﾌｨｰﾙﾄﾞ選手権大会	5月17日～19日	滋賀県：米原市 ｸﾞﾗﾝｽﾉｰ奥伊吹 特設コース	グランスノー奥伊吹	グランスノー奥伊吹	グランスノー奥伊吹	グランスノー奥伊吹	グランスノー奥伊吹
	第57回全日本社会人ﾀｰｹﾞｯﾄ選手権大会	6月29日～30日	東京都：江東区　夢の島公園 アーチェリー場	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）
	第７回ＧＡｶｯﾌﾟｱｰﾁｪﾘｰ大会 兼 第19回全日本小学生中学生選手権大会	9月13日～15日	静岡県掛川市：つま恋リゾート彩の郷	つま恋ﾘｿﾞｰﾄ彩の郷	つま恋ﾘｿﾞｰﾄ彩の郷	つま恋ﾘｿﾞｰﾄ彩の郷	つま恋ﾘｿﾞｰﾄ彩の郷	つま恋ﾘｿﾞｰﾄ彩の郷
	第45回全日本社会人ﾌｨｰﾙﾄﾞ選手権大会	9月28日～29日	山梨県：加賀美フィールドアーチェリー場	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）
	第78 回国民ｽﾎﾟｰﾂ大会・ｱｰﾁｪﾘｰ競技	10月5日～7日	佐賀県：鹿島市　鹿島市陸上競技場	滋賀県	青森県	宮崎県	長野県	群馬県
	第66回全日本ﾀｰｹﾞｯﾄ選手権大会	10月25日～27日	東京都：江東区 夢の島公園 ｱｰﾁｪﾘｰ場・陸上競技場	夢の島	夢の島	夢の島	夢の島	夢の島
	第34回全日本室内選手権大会	2025年2月22日～23日	和歌山県：和歌山市　和歌山ビッグホエール	北海道	関東or九州	中国	（検討中）	（検討中）
	第10回 小中学生全国通信大会	2023年11月13日～2024年11月10日	通信大会	-	-	-	-	-
	第16回ﾏｽﾀｰｽﾞ全国通信大会	2024年 4月1日～11月10日						
講習会	全国指導者・審判員ﾙｰﾙ研修会	11月30日～12月1日	滋賀県：草津市	東北	九州	北信越	関東	中国
	ﾌﾞﾛｯｸ別指導者講習会	2025年1月中旬	東京都：BumB東京ｽﾎﾟｰﾂ文化館	九州	東海	中国	（検討中）	（検討中）
	新規１級公認審判員認定講習・試験	2025年2月ごろ	東京都：場所は未定	開催を希望する都道府県（希望がなければ東京都で開催）				
イベント	笑顔をつなぐｱｰﾁｪﾘｰ	7月14日	東京都：BumB東京ｽﾎﾟｰﾂ文化館ｱｰﾁｪﾘｰ場	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）
	東京記念第4回ﾁｬﾚﾝｼﾞﾀｰｹﾞｯﾄｱｰﾁｪﾘｰ大会	11月	静岡県掛川市：つま恋リゾート彩の郷	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）	（検討中）
	アーチェリー教室	未定	希望する都道府県が主催して行う					

1）開催地決定と処理について（確認）

開催2年前……地区代表者は、該当地区内の主管都道府県を決定して本連盟競技部に報告をすること。

開催1年前……主管都道府県は開催期日及び場所（会場地）を決定し、地区代表者を通じて本連盟競技部に報告する。

開催年度……2ヶ月前→開催要項の発送。　　4～5週間前→参加申込書の締め切り　　3～4週間前……選考結果発表

2）2025年開催ブロックにおいては、前年度（2024年）9月下旬までに開催都道府県を確定し予定開催日も含めて連盟事務局に報告すること。

（公社)全日本アーチェリー連盟の新資格制度の概要(案)

1.指導者資格制度について

2.資格の種類と内容について

3.指導者養成プログラム(更新研修とリフレッシュ研修)

4.受講条件・有効期限

5.講習時間数・料金

6.資格の義務化の詳細

7.指導者育成委員会について

１.指導者資格制度について

（公社）全日本アーチェリー連盟指導者育成委員会（下記 7 の項目のとおり指導者育成委員会を設ける）は、アーチェリー指導者の資質および指導力の向上を図り、 アーチェリー競技の普及および振興を促進するため、公認アーチェリー指導者資格を制定する。 都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ(アーチェリー教室を含む)においては、公認アーチェリー指導者を必ず配置し、本資格制度及び、(公社)全日本アーチェリー連盟並びに傘下の組織の諸規程に基づく管理監督、指導等を行うものとする。ただし、有資格指導者の人数は、その組織の必要度に委ねるところとする。または、出場する公認競技会の規定に依り必要な指導者を配置するものとする。

目的　１. 普及・強化の基盤作り

２. コーチの資質の向上と人数の増加

３. 審判資格者の養成と指導者登録者の増加

４. 新たな指導者の発掘と既存指導者の活性化

５. リスクマネジメント意識の向上

６. ナショナルチームコーチの組織的・計画的な育成

２.資格の種類と内容について（2023 年 3 月にJSPO承認済み）

（公社）全日本アーチェリー連盟では公認アーチェリー指導者資格として以下の 5 種類の資格を制定する。

資格名	養成目的・役割・受講資格	
公認アーチェリー スタートコーチ	養成目的	初めてのコーチとして、必要最低限の知識・技能に基づき、アーチェリー競技の上位資格者と協力し、安全で効果的な活動を提供するコーチングアシスタントとして活躍できる指導者を養成する。
	役割	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供することである。
	受講条件	受講年度の 4 月 1 日現在満 18 歳以上の者で、全ア連会員登録者であること。都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、アーチェリー競技の指導にあたっている者。又はこれから指導者になろうとする者。

公認アーチェリーコーチ1	養成目的	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、コーチングスタッフとして，基礎的な知識・技能（3級審判資格取得）に基づき，安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する。
	役割	対象者の発育・発達に応じ様々な運動経験を通し、スポーツに必要な身体作りと動き作り、あわせて基礎的なアーチェリーの技術の指導にあたる。都道府県協会（連盟）傘下のチームの監督・コーチとして選手の育成指導にあたる。
	受講条件	受講年度の 4 月 1 日現在満 20 歳以上で、アーチェリー経験5年以上の全ア連会員登録者であること。
公認アーチェリーコーチ2	養成目的	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築・実行・評価し監督する事と併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援できる指導者を養成する。
	役割	年齢・競技レベルに応じた指導にあたるとともに、都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動（全日学連を含む）及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等が実施する各種事業の立案・運営に参画する。都道府県協会（連盟）傘下のチームの監督・コーチとしてチームをまとめ、競技者が能力を発揮できるように指導にあたる。
	受講条件	受講年度の 4 月 1 日現在満 22 歳以上で、アーチェリー経験5年以上の全ア連会員登録者であること。
公認アーチェリーコーチ3	養成目的	主に地区ブロック、及び全国大会レベルで活躍できる選手の育成、及び競技力向上、選手強化を目的とした組織内でコーチ、監督を務めることが可能な指導者を養成する。
	役割	都道府県ア協(連)、及び学校部活動（全日学連を含む）等での競技力向上、選手強化の場において、競技者育成プログラムに基づき、都道府県を代表する選手の監督・コーチとして指導にあたる。また、各種講習会において強化育成について指導的立場になる。
	受講条件	受講年度の 4 月 1 日現在満 25 歳以上で、アーチェリー経験 10 年以上の者で全ア連会員登録者であること。都道府県協会（連盟）が推薦し、全ア連が認める者。
公認アーチェリーコーチ4	養成目的	国際大会で活躍が期待できる日本を代表するトップレベルの選手、或いは全ア連が組織するナショナルチーム、地域強化拠点、エリートアカデミー等での競技力向上を目的としたコーチングを行うことができる指導者を養成する。
	役割	日本を代表するトップレベルの選手の育成・強化にあたるとともに、国際的な視野を持ち、全ア連の強化スタッフとして競技力向上策の研究・開発に参画し、また国際的な最新情報の収集・分析の役割を担い、全国の強化活動の中心として活動する。また、各種講習会において強化育成について指導的立場になる。
	受講条件	受講年度の 4 月 1 日現在満 28 歳以上で、アーチェリー経験10年以上の者で全ア連会員登録者であること。都道府県協会（連盟）が推薦し、全ア連が認める者。全国大会以上の大会において、団体ベスト4のチームの指導歴を有する者。

3.指導者養成プログラムについて（2023 年 4 月より）

指導者養成プログラムは「指導者としての技能を付与する資格認定講習」と「更新研修とリフレッシュ研修」2本柱とする。

◆資格認定講習

各資格認定講習会は、都道府県アーチェリー協会（連盟）あるいは（公社）全日本アーチェリー連盟の主管で開催する。尚、（公社）全日本アーチェリー連盟指導者育成委員会は各資格認定講習会に指導・助言を行う。

◆更新研修とリフレッシュ研修

更新研修を受講することで資格の有効期限が延長される。更新研修とは、都道府県スポーツ協会、(公財)日本スポーツ協会、（公社）全日本アーチェリー連盟が主催する研修会等とする。また、都道府県ア協会（連盟）・全日本学生連盟・全国高体連アーチェリー専門部が事前に（公社）全日本アーチェリー連盟に申請し認められた研修会も更新研修とする。但し、公認アーチェリーコーチ3は 2 年に 1 回、公認アーチェリーコーチ4は 1 年に 1 回、（公社）全日本アーチェリー連盟強化部が主管するリフレッシュ研修に参加しなければならない。

4.受講条件・資格の有効期限

アーチェリー指導者資格認定講習の受講にはそれぞれ条件を定めている。また、資格取得後も有効期限内に更新研修に 1 度も参加しない、リフレッシュ研修に参加しない場合は資格が失効する。

資格名	受講条件	有効期限	更新研修	リフレッシュ研修
スタートコーチ	※受講年度の 4 月 1 日現在満 18 歳以上	4年間	4年に 1 回 ※全ア連登録者とすることを検討中	
コーチ1	※受講年度の 4 月 1 日現在満 20 歳以上で 5 年以上の全ア連登録者	4年間	4年に 1 回 ※全ア連登録者とすることを検討中	
コーチ2	※受講年度の 4 月 1 日現在満 22 歳以上で 5 年以上の全ア連登録者	4年間	4年に 1 回 ※全ア連登録者とすることを検討中	
コーチ3	※受講年度の 4 月 1 日現在満 25 歳以上で 10 年以上の全ア連登録者　都道府県協会（連盟）が推薦し、全ア連が認める者。	4年間	4年に 1 回 ※全ア連登録者とすることを検討中	2年に1回 （全ア連強化部主管研修） ※全ア連登録者

コーチ4	※受講年度の 4 月 1 日現在満 28 歳以上で 10 年以上の全ア連登録者、都道府県協会（連盟）が推薦し、全ア連が認める者。全国大会以上の大会において、団体ベスト4のチームの指導歴を有する者。	4年間	4年に 1 回 ※全ア連登録者とすることを検討中	1年に1回 （全ア連強化部主管研修） ※全ア連登録者

※復活登録制度

「未登録」・「未更新」により保留期間を超過した場合は、登録する権利が「無効 」となるが、「無効」の場合は 資格毎に日本スポーツ協会又は全ア連の定める復活登録要件を満たすことにより、登録する権利が与えられ 「復活登録」の対象となる。復活登録要件とは、①全ア連の会員登録者である者、②「復活登録申請書　兼　申請要件調査書」が全ア連に提出され、指導者育成委員会がこれを認めた者、③復活登録申請を過去に使っていない者とする。

（※公益財団法人 日本 スポーツ 協会公認スポーツ指導者登録規程による）

5.講習時間数と料金

資格名	時間数	集合	受講料 上段JSPO 下段PF・NF	登録料 （初年度）
スタートコーチ	共通科目　15 時間（うち 3.5 時間集合講習） 専門科目　4 時間（4 時間集合講習）	7.5 時間	5,000 円 （PF・NF）	16,300 円 (JSPO)
コーチ1	共通科目Ⅰ　45 時間 専門科目　20 時間（20 時間集合講習）	20 時間	18,700 円 (JSPO) 15,400 円	20,300 円 (JSPO含む)
コーチ2	共通科目Ⅱ　135 時間 専門科目　40 時間（40 時間集合講習）	40 時間	17,600 円 (JSPO) 11,000 円	23,300 円 (JSPO含む)
コーチ3	共通科目Ⅲ　150 時間 専門科目　60 時間（60 時間集合講習）	60 時間	22,000 円 (JSPO) 11,000 円	25,300 円 (JSPO含む)
コーチ4	共通科目Ⅲ　150 時間以上 専門科目　80 時間（80 時間集合講習）	80 時間	30,800 円 (JSPO) 17,600 円	33,300 円 (JSPO含む)

時間や受講料は変更になる可能性もある。

※受講料には交通費・宿泊費・資料代は含まれない。

※コーチ2・コーチ3よりコーチ1の受講料が高い理由は、日本スポーツ協会の規定によるもの。

資格別料金比較表

資格名	資格別登録料 現行	資格別登録料 改定	専門科目 受講料	共通科目 受講料	JSPO登録料 （初年度４年間）	更新料 ４年に１回
ｽﾀｰﾄｺｰﾁ		3,000 円	5,000 円		13,300 円	13,000 円
コーチ1	5,000 円→	7,000 円	15,400 円	18,700 円	13,300 円	17,000 円
コーチ2	5,000 円→	10,000 円	11,000 円	17,600 円	13,300 円	20,000 円
コーチ3	5,000 円→	12,000 円	11,000 円	22,000 円	13,300 円	22,000 円
コーチ4		20,000 円	17,600 円	30,800 円	13,300 円	30,000 円

※更新料金

６.資格の義務化の詳細について（2030 年4月１日完全実施予定） 別紙参照「資格義務化計画」

1.資格登録者配置の義務

※以下の公認スタートコーチとはスタートコーチ（教員免許状所持者）及びアーチェリースタートコーチである。

都道府県ア協(連)、及び市区町村ア協(連)、学校部活（高体連・学連）及び地域スポーツクラブ（アーチェリー教室を含む）においては、（公財）日本スポーツ協会公認資格（公認スタートコーチ以上）を保有する指導者を１名以上置かなければならない。 **《2030 年度迄には実施予定》**

2.大会出場時の資格登録者配置の義務

大会に参加する際、監督・コーチが帯同する場合、大会規定に定められた指導者資格を保有する指導者でなければならない。

1） 地区協会（連盟）及び都道府県協会（連盟）主催の大会：出場選手の監督及びコーチは公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。**《2030 年度実施予定》**

2） 全日本GAカップ大会、小中学生選手権大会：出場選手の監督及びコーチは公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。 **《2028 年度実施予定》**

3） 全日本選手権（ターゲット・室内・フィールド）：出場選手の監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ1以上の資格保有者を帯同させることを原則とするが、大会規定や大会要項等にコーチ名の例外規定が示されているときはこの限りではない。 **《2025 年度実施予定》**

4） 選考会（Nチーム、海外試合選考会）：出場選手の監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ2以上の資格保有者を帯同させることを原則とするが、大会規定や大会要項等にコーチ名の例外規定が示されているときはこの限りではない。 **《2025 年度実施予定》**

５） 全日本学生連盟・全国高体連の主催大会：出場選手チームの監督及びコーチは、公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。 **《2030 年度実施予定》**

６） 国民スポーツ大会に出場する都道府県代表チームの監督は、公認アーチェリーコーチ1以上の有資格であること。帯同コーチについても公認アーチェリースタートコーチ以上の資格保有者でなければならない。**《2030 年度実施予定》**

3.日本代表チーム等の指導者

1）日本代表チームの監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ4または公認アーチェリーコーチ3の資格保有者でなければならない。

※指導者の育成、選考については（公社）全日本アーチェリー連盟内の指導者育成委員会が指導・助言する。

7. 指導者育成委員会について（2025 年4月1日組織完成予定） 別紙参照「資格義務化計画」

1.組織の目的

アーチェリー競技の健全な普及・発展と競技力向上を目指して、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者に基づき、指導者養成事業を展開する。

公認スポーツ指導者資格を取得す ることによって、コーチに必要な知識・能力等を身に付け、プレーヤーにとって安心、安全な環境を構築すること、アーチェリーをはじめとしたスポーツの楽しさを広げていくこと、さらには人間力・競技力の向上に寄与することを目的とする。組織的に計画的に指導者を育成することで、常に世界に通用する指導者の育成と選手の育成を視野に入れた広いビジョンを持ち、幼い頃から正しい基本(ファンダメンタル)の徹底と発育・発達段階に応じた一貫指導ができる指導者を養成する。

2.組織の構成

1）全ア連内　　普及部 2 名（委員長選出）、競技部 2 名、強化部 2 名　計 6 名　　**《2022 年度内実施予定》**

2）地区（9 ﾌﾞﾛｯｸ）　北海道 4 名、東北 3 名、関東 4 名、北信越 3 名、東海 2 名、近畿 3 名、中国 2 名、四国 2 名

九州 3 名　計 26 名以内　　**《2022 年度内実施予定》**

3）都道府県　　各都道府県 1 名、全日本学生連盟 1 名以上、全国高体連 1 名以上　　**《2025 年度内実施予定》**

4）任期期間　　任期は 2 年とするが、各団体の推薦があれば再任を妨げない。

※地区委員と都道府県委員の重複は可

2023年11月16日
全ア連　総務部

文書交換システムの運用について

全ア連事務局と加盟団体との間で、メール、郵送およびFAX等で行なっている各種連絡文書等の授受を、ホームページ上で行えるよう、新たな仕組みを構築しました。
加盟団体ごとの専用ページ（マイページ）にアクセスしていただくことで、連絡文書の受け渡し、受領の確認が可能となります。
双方の連絡事務の効率化を図るとともに、行き違い防止にもつながると考えております。

1.　文書交換システムを利用するもの

【全ア連からの発信文書】

連盟通信（競技会開催要項、各種事業の開催案内、その他連絡事項）

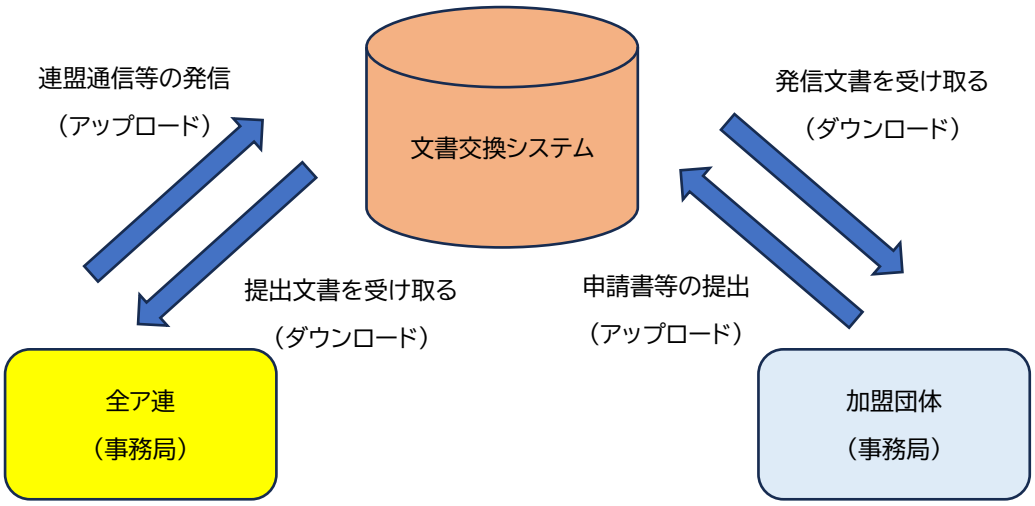
【加盟団体からの送信文書】

	文書名・種類等	使用頻度
総務関係	加盟団体役員届	毎年4月および変更が生じた時
会員登録関係	会員管理システム組織管理者申請書　兼　誓約書 団体および団体管理者申請書　兼　誓約書	変更が生じたとき
	会員証再発行依頼書 会員登録データ抹消依頼書	必要が生じたとき
競技会関係	全ア連主催の競技会出場資格申請書 監督・コーチ申請	競技会、選考会ごと
	競技会専任者申請書　兼　誓約書	変更が生じたとき
	公認競技会変更・中止届 公認競技会報告内容変更届	変更・中止したとき
その他	スターバッジ申請書 公認審判員認定申請書 講習会の参加申込書　　など	申請時・申込時

2.　システムを利用しないもの

日常的な連絡事項や、加盟団体ごとの個別案件
法的要件などがあり、書類原本でのやり取りが求められるもの（総会の出欠連絡など）
押印の原本が必要なもの
その他システムには適さないもの

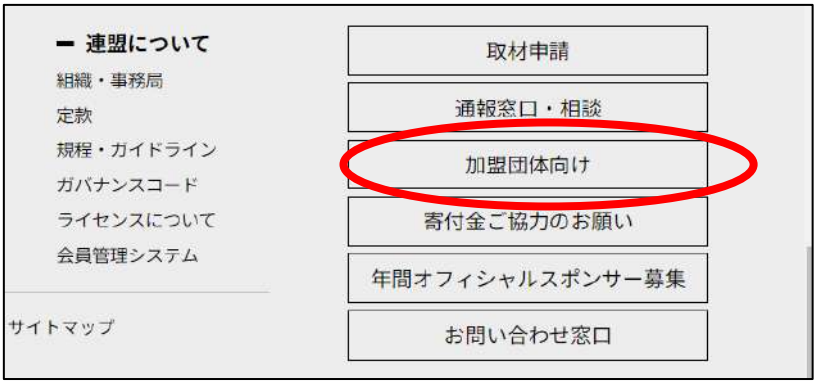
3.　文書交換システムの利用イメージ



4.　文書交換システムの使い方

【ログイン方法】

①　全ア連ホームページ https://www.archery.or.jp/の下部にある「加盟団体向け」をクリックします。



②　ユーザー名とパスワードが求められたら、加盟団体宛に通知した共通情報でログインしてください。
（ユーザー名とパスワードは、2023 年 11 月 8 日に、加盟団体ごとにメールで通知しています）
ユーザー名とパスワードは、無関係な方がシステムを開くことを防止する意味があります。
全加盟団体の共通パスワードですので、決して外部に漏らさないようにお願いします。

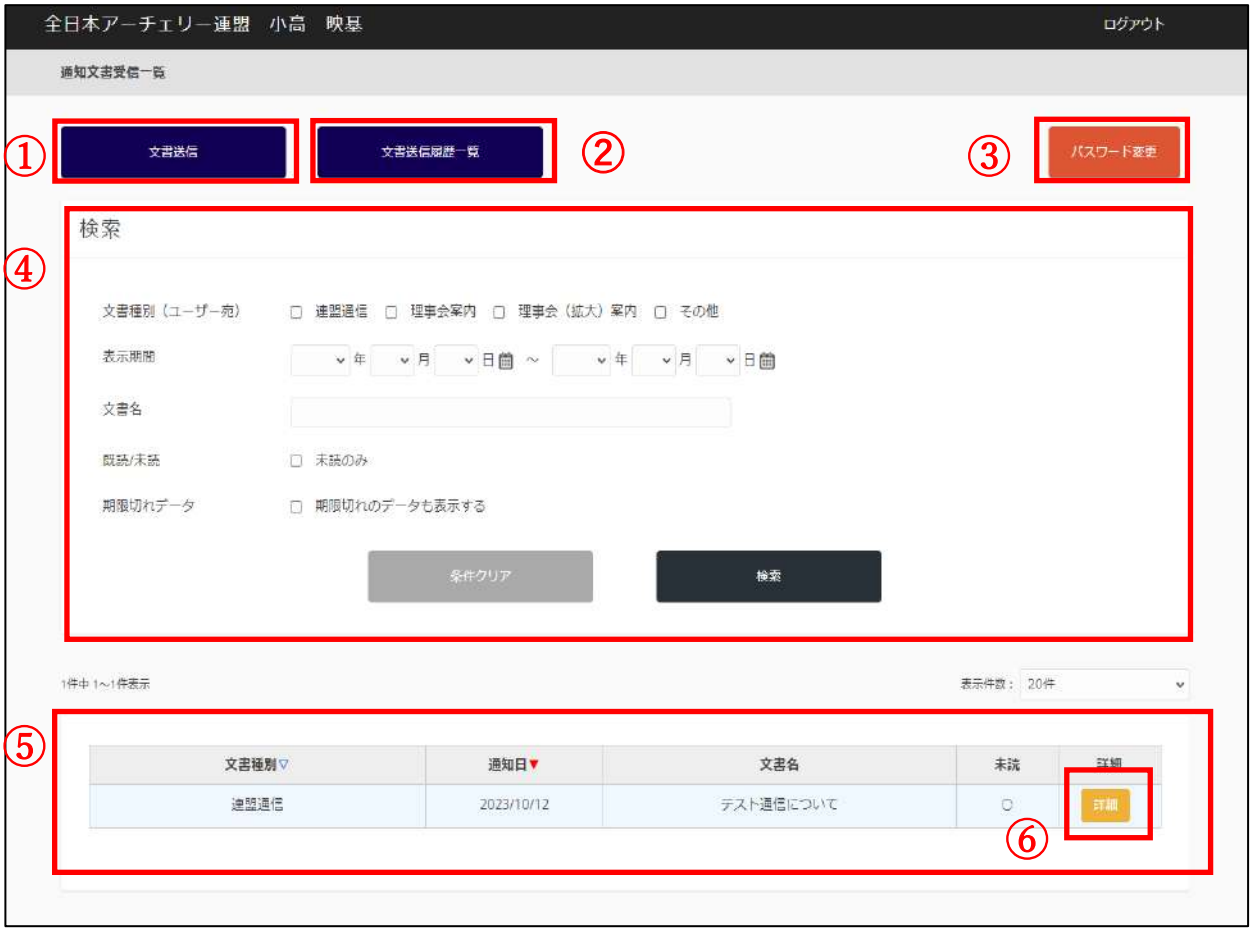
③ 文書交換システムが開きます。
加盟団体ごとに割り振られた、ログインIDとパスワードでシステムにログインしてください。
（ユーザー名と初期パスワードは、2023 年 11 月 8 日に、加盟団体ごとにメールで通知しています）

※初めてログインした際に、初期パスワードを速やかに変更してください。
パスワードの変更は、「パスワード変更」をクリックします。

現在のパスワード（初期パスワード）と新しいパスワードを入力し、変更をクリックします。

【基本的な使い方】

① 文書送信ボタン　　全ア連事務局へ文書を送信します。
② 文書送信履歴一覧ボタン　　送信した文書を一覧表示します。事務局の開封状況も確認できます。
③ パスワード変更ボタン　　ログインパスワードを変更できます。
④ 検索条件　　全ア連事務局から送付されている文書の検索条件を指定できます。
⑤ 受信文書一覧　　全ア連事務局から送付されている文書が表示されます。
⑥ 詳細ボタン　　文書の内容を確認できます。添付ファイルのダウンロードも出来ます。



5. Q&A

【加盟団体内の複数のメンバーに閲覧権限を与えてもよいでしょうか？】

編集（発信）については、事務局担当者のみが行うことが望ましいですが、加盟団体の責任において担当者（数名程度）でユーザーID を共用して運用することは妨げません。

ただし、各加盟団体より文書交換システムにより発信された文書は、真正な文書であると判断をいたしますので、ID やパスワードの取り扱い・運用には、充分ご留意いただきますようにお願いいたします。

【文書交換システムで提出した文書の原本を、郵送でも送る必要はありますか？】

文書交換システムで提出された文書は、真正な文書として取り扱いますので、原本の送付は不要です。

また、特に指示がある場合を除き、文書への捺印（公印等）は省略しても差し支えないことといたします。

ただし、何らかの理由で原本の提出を求めることもありますので、いつでも提出できるよう、文書の管理をお願いいたします。（文書管理番号を付記、文書管理台帳などでの管理など）

以上

資料③

2023 年 12 月 1 日
審判部会　祝迫　修

2023 年度 全国指導者・審判ルール研修会報告

（公社）全日本アーチェリー連盟主催の 2023 年度 全国指導者・審判ルール研修会が
１１月２５日～２６日に佐賀県スポーツ会館で開催されました。
同研修会に代表審判員として参加しましたので、その概況を報告します。

1. 研修カリキュラム
2 日間で約 8 時間の研修カリキュラムを実施、会場参加者に加え初めての試みとして
オンライン参加として 11 名が出席した。
（１） 審判員基礎・審判員実務について
（２） Ianseo 講習
（３） 安全について
（４） コンプライアンスに関する研修
（５） アンチ・ドーピングに関する研修

2. 各カリキュラムについて
（１） 審判員基礎・事例研究　審判員実務について
講師：永尾競技部理事
① 審判員の基礎
審判員に必要な 3 要素
・知識：高度な見識と卓越した技術
事例として「時間外発射時のレッドカード」は競技規則のどこに規定されて
いるか
「フィールド競技で利用できる用具」について
また、常に知識の更新が必要であり、練習時間の時間外発射に対して 1 エンド
の最高得点を削除した審判長の事例報告があった。
・公平
常に全選手にとって公平な判断・対応になっているか
事例として「本人の責任によらない遅延」に対する取扱い（207 条 7 項）他
・博愛
罰する前に改善できない、故意・悪意な行為であったか、などを検討し、安易
に処罰をしない」（させない）
事例として、スコアーカードの素点を高得点順に記載しなかった場合について

② 具体的な業務
得点判定の実務として 10 ケースの得点判定を検討
③ マッチ戦の規定
個人戦の審判員の配置と動き
団体戦の審判員の配置と動き
記録確認の流れ

講習終了後の会場よりの質問に興味深いものがありましたので報告に追加します。
質問は用具故障の対応についてです。
6 射の競技で 3 エンド目、5 本行射した後用具故障が発生、修理完了時には射残し
1 本と 2 エンド競技が進行していた。
この場合の補充矢の行射手順はどうあるべきか。

この競技会は補充矢を 2 エンドと選択していたので、1 射 30 秒で行射して矢取、次のエンドの 6 射して終わりと思いましたが、会場の声や永尾氏の説明で別の選択肢がありました。
最大 2 エンドの補充矢行射ですから、1 本の射残しを M として、2 エンド 12 本を行射させるのが選手ファーストの観点で良いとするものでした。
結論は会場では出ず後日と言うことになりました。

また、競技規則の補充矢の行射に関して 2 エンドあるいは 15 分以内との規定がありますが、翻訳時に誤りがあり補充矢に与えられる時間は「2 エンドかつ 15 分以内」が正しく、来年の競技規則改定時に修正するとのことでした。

（２）Ianseo 講習　Ianseo の紹介ならびに記録実務について
講師：山ノ内執行役員
Ianseo の普及も広がってきたが、導入に至ってない協会もまだまだあるので本日のテーマとしたが、決して Ianseo の利用を強制するものではない。
と言うことで Ianseo の導入に必要な機材や配置、Ianseo で出来ることについて講習が行われたが、活用済みの都ア協に全く必要のない内容でしたので割愛します。

（３）安全について　事故事例の検証
講師：七澤競技部長
２０１９年１１月より２０２３年８月までの間に全ア連に報告のあった事故事例(別紙)の解説を中心に講義が行われた。

特に防矢ネットの劣化や適切に設置されていなかったことが原因の事故事例について意見交換が行われた。
七澤部長より富山県の業者の開発した防矢ネットのテストを繰り返し行ったが防矢ネット１枚ではネットの改善を繰り返しても矢の貫通を防ぐことが出来なかった。
防矢ネットを２重以上にするか、前を張らずに垂らすかで対応するしかない模様との報告があった。
会場より防矢ネットでなく、コンパネや金属の細かい網で防いではどうか、矢の保全は考えず止めることを主目的とすべきとの意見が複数あり、実施している協会もあるとのことであった。

次に安全での課題が未登録アーチェアーの安全教育等の対策があり、各協会へ未登録アーチャーの把握状況を七澤部長より質問されたが、かなりの数はいる模様だがその実態を把握できている協会は無かった。
インターネットで弓を購入したり、射法を学んだりするが協会への未登録のアーチェアーを未登録アーチャーと仮称する。

（４）コンプライアンスに関する研究
講師：TMI 総合法律事務所　福田 貴子 弁護士
パワーハラスメント並びにセクシャルハラスメントについてケーススタディーを含め講習が行われた。

① スポーツにおけるパワーハラスメントとは
上下関係に基づき不要な言動により身体的・精神的苦痛を与え、又は競技の環境を害すること。
パワハラを６類型に分類し具体的にディスカッションを含め解説が行われたが、熱心な指導とパワハラの区別は難しい面もある。

1. 身体的な攻撃
2. 精神的な攻撃
3. 人間関係からの切り離し
4. 過大な要求
5. 過小な要求
6. 個の侵害

② セクシャルハラスメントとは
スポーツにおけるセクシャルハラスメントは、相手の意に反する、性的な言動により、身体的・精神的な苦痛を与え、又は競技（練習や試合）環境を害すること。
男→女だけでなく、男→男、女→女、女→男に対する行為もセクハラに該当す

る。
熱心な指導（特に射形の修正等、言葉で説明することが難しいもの）とセクハラの区別は難しい。
周囲の人からセクハラをしていると疑われる行動は避ける必要がある。

ハラスメントが疑われるとき、迷ったとき、悩んだときはすぐ相談し、早期かつ適切な対応に心がける。
日頃から、ハラスメントへの意識を高める。

(5) アンチ・ドーピングについての研修
講師：大阪大学 特任研究員 花井 達広
クリースポーツとアンチ・ドーピングについて
・ドーピングとは運動能力を高めるために不正な薬を用いること、または薬の使用を隠蔽すること。
・なぜ、ドーピングはいけないのか
フェアープレー精神に反する
アスリートの健康への悪影響
・アンチ・ドーピング活動が重要
スポーツに関わる全ての人にとってスポーツの価値を守るために、ドーピングは無くしていかなければならないもの
ドーピングをゼロにする、ゼロであり続けるためにアンチ・ドーピング活動を継続する必要がある
・世界アンチ・ドーピング規程
・アンチ・ドーピング規則違反
・禁止国際基準
ドーピング違反となる物質・方法についての基準
年１回以上見直し・改訂されるので最新の情報の確認が必要
・スポーツファーマシスト
最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師
競技者・指導者からの問合せへの対応・使用薬管理
スポーツ愛好家への薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育
国内スポーツファーマシストは 12,701 名（2023 年 4 月 1 日現在）

以上

2019年からの全日本アーチェリー連盟に報告された事故事例（要約版）

① 射場外へ矢が飛び出し、近隣建物の窓を突き破りトイレに飛び込む	
2019年11月 高校練習場	【状況と事故内容】 ・50mで矢が的に届かない１年生の選手に、他の選手が協力してサイトの調整をしていた ・上向きで発射する位置でもまだ下方に行っていた ・他の技術のある１年生が手本を見せるために、その選手の弓で１本発射 ・自分の矢で射ったため、的面上方の高さ７ｍのネットの上方を越え場外に飛び出した ・部員たちで矢を捜索し、約20分後に顧問が状況を確認する ・的後方を確認したところ、近隣建物の窓ガラスに孔を発見 ・建物は不在だったが、連絡を取り内部を確認 ・ガラスを破った矢がトイレの引き戸に当たり、床に落下していた
	【対応と対策】 ・被害家主への謝罪（教頭・部活顧問） ・練習の停止 ・安全対策の検討　行射方向の変更及び安全対策
② 競技会中CPのDループが外れ体育館に矢を射ち込む	
2019年11月 競技会中	【状況と事故内容】 ・インドア競技会中のＣＰ部門においてドローイング中Dループが外れ体育館ステージに矢を射ち込んだ ・長く CP の競技に携わっている選手で、常にメンテナンスも行われていた ・破損部分に明確な経年劣化は見られず、事前の弓具検査においても異常は発見されなかった ・ドローイング方法も問題なく、事前予測は困難だった
	【対応と対策】 ・直ちにウェイティングライン後方に下がらせ、他の選手及び役員にケガ人が無いことを確認 ・競技は続行、行射終了後に射ち込まれた矢を回収 ・審判長が弓具の破損状況を確認 ・選手本人の申し出によりその後の競技は棄権 ・CPの選手に対して、その場で用具の再点検を実施 ・大会閉会式においてRCの選手を含め、用具や射形の点検をするよう指導 ・各高校には事故防止の指導を依頼
③ 弦張り時にストリンガーが外れ顔面強打	
2020年2月 高校練習場	【状況と事故内容】 ・弦を張る際、ストリンガーがリムチップから外れ、リムが右瞼に当たり出血 ・ストリンガーのチップにかける部分は、競技用の小さいチップ用だった ・チップの大きいレンタルリムに対しては掛かりが浅かったと推測される
	【対応と対策】 ・現場にいた他の部員が保健室と顧問に連絡 ・負傷した生徒自身がテイツシュを当てて止血後に病院に行き受診 ・部活は当面の間の自主練習を禁止 ・活動再開時にミーティングを行い、事故の報告と安全指導を行った ・指導内容：用具の扱いには緊張感をもって行うとともに、事故防止の意識だけでなく、事故が起こった時にけがをしないような立ち位置や、行動を意識するように伝え、定期的な安全指導を機会あるごとに事故例を挙げて注意を行い予防に努める事とした

④防矢ネットを貫通して民家の雨戸に刺さる	
2021年10月 学校練習場	【状況と事故内容】 ・顧問指導下で50mの練習中、カーボン矢が的上方に外れた ・的後方の防矢ネットをすり抜け、射場後方の防矢ネットを貫通、矢は隣接する民家の雨戸に刺さった
	【対応と対策】 ・ただちに練習を中止し、住民に謝罪 ・学校管理職に報告し、管理職から再度謝罪 ・防矢ネットの劣化と民家方向への行射を問題視 ・確実な安全が確保できるまで射場での実射練習は中止
⑤発射時に矢が折れて指に破損矢が刺さる	
2022年2月 公設練習場	【状況と事故内容】 ・高校生が自主練習中、行射した矢が破損し本人の手指に破損した矢が刺さった ・破損矢を調べるとポイント部分に傷があり、以前に滑走した矢にダメージがあったものと推測される ・リリース時にかかる矢への負荷に、亀裂や傷等が影響し破損につながったものと考えられる
	【対応と対策】 ・指導者が、けがと事故現場の状況を確認した後、救急センターに連絡し状況を報告 ・最寄りの病院が休みだったため救急車を手配 ・保護者に電話で事故状況と救急車で病院へ向かうことを説明 ・カーボン矢である事を考慮し、入院して精密検査をすることとなった ・指導者・選手ともに安全に対する認識を再度確認徹底 ・弓を射つ際には、用具の安全確認を必ず本人に行わせ管理を徹底させる ・矢取りの際に、矢の破損等について確認する ・試合・合宿時において、更なる安全意識向上と再発防止についての研修を行い認識を深める
⑥撤収作業時に標的に刺さっている矢に目を刺す	
2022年10月 公設練習場	【状況と事故内容】 ・競技会終了後の撤収作業で的下の的番号板を回収する際、標的にはまだ矢が刺さっていたが、気が付かずにかがんでしまい、右目辺りにノックが刺さって右目右側の瞼と白眼部分を裂傷し出血した ・発生時は小雨で、急いで撤収作業をしようとしていた
	【対応と対策】 ・競技委員長が状況を確認、負傷者の高校顧問とコーチに救急車の要請と保護者への報告を指示 ・救急車と保護者が会場に到着し病院へ搬送 ・右目瞼を８針縫合、白眼にも傷があり一時的に視力は落ちるが、回復の見込み ・再発防止に向けて今後の取り組み ・設営・撤収の指揮系統を一本化し、作業全体の全体掌握に努める ・撤収作業は競技終了後に安全確認をしてから関係者全員で行い、指揮系統を一本化する ・選手にはクイーバーを外して作業することを徹底 ・県協会主催の審判講習会等にて、本件を議題とする再発防止に向けた討論を行う ・安全管理、再発防止のために関係者の安全意識の向上と再発防止策のアップデートに務める

⑦ 矢が外れ窓ガラス破損	
2022年10月 高校練習場	【状況と事故内容】 ・練習中、矢が外れて校舎の窓ガラスを破損 ・標的後方の防矢ネットを二重にしていたが、部分的にめくれ上がっていた ・防矢ネット自体が重く、今までにはなかったが、数日前の強風でめくれ上がったものと思われる
	【対応と対策】 ・必ず事前に射場点検を行ってから練習を行うことを徹底
⑧ サイト間違いにより射場後方建物に射ち込み	
2023 年 5 月 大学練習場	【状況と事故内容】 ・30m 行射中に 50m のサイトで行射、かつレストアップしたため大きく外れた ・上部(4.5m)の防矢ネットの隙間を抜け、射場後方建物の 2 階外壁に射ち込んだ ・事故当時建物内に人はおらず、負傷者はいなかった
	【対応と対策】 ・建物の使用団体に大学学生課を通じて報告、謝罪した。 ・行射時のサイトがその距離に応じたものになっているか適宜確認、注意喚起を行う ・防矢ネットに隙間が空いていたことも原因のひとつであるため、これを塞ぐなど対策を徹底する
⑨ テントの紐に矢が接触し後方建物に射ち込み	
2023年 8月 高校練習場	【状況と事故内容】 テントの中から行射中、幌の紐に矢が当たり軌道が逸れ、後方の建物内のロッカーに刺さった
	【対応と対策】 ・管理職に事故報告し、防矢ネットの改修を依頼 ・競技の危険性と安全についての認識を改めて共有した ・テント内からの行射を禁止した

★事故情報を共有して、安全対策のヒントとなるよう活用しましょう。

どのような事情があっても「飛び道具」を使ったアーチェリーにおける人身事故は、たとえ軽微なものでも、外部に与える影響はとても大きなものになります。

事故はその結果のみが問題となり、アーチェリー界全体に大きなダメージを与える可能性があります。

アーチェリーに携わるすべての人は、危険防止に対して関心を持ち注意を払わなければなりません。

危険防止に関して相互に連帯をとり、情報を共有し、日常から事故防止と安全に関しての習慣を定着させましょう。

競技スポーツとしてのアーチェリーを通じて私たちは、相手を誠実に思いやり、尊敬し、真剣に競技して、よきアスリート・心豊かな人間になることを目指しましょう。

公益社団法人全日本アーチェリー連盟

資料④

231206確定

東京都アーチェリー協会 2024年度 理事会等

西暦年	月	日	曜日	会議	第３会議室	第１＋２会議室	備　　考	事業年度
2024年	１月	10日	（水）	理事会（新年会）		●	理事会後、新年会	２０２３年度
	２月	７日	（水）	常務理事会	●			
	３月	６日	（水）	常務理事会	●		会計締切	
	４月	３日	（水）	常務理事会	●		総会資料ドラフト	
	５月	１日	（水）	理事会		●	総会資料最終確認	
	５月	29日	（水）	総会（懇親会）	●小体育室		定例総会・懇親会	
	６月	５日	（水）	理事会		●		２０２４年度
	７月	３日	（水）	常務理事会	●			
	８月	７日	（水）	常務理事会	●		国体関東ブロック	
	９月	４日	（水）	常務理事会	●			
	10月	２日	（水）	理事会		●	10/6～8佐賀国体	
	１１月	６日	（水）	常務理事会	●			
	１２月	４日	（水）	常務理事会	●			
2025年	１月	８日	（水）	理事会（新年会）		●	理事会後、新年会	
	２月	５日	（水）	常務理事会	●			
	３月	５日	（水）	常務理事会	●		会計締切	
	４月	２日	（水）	常務理事会	●		総会資料ドラフト	
	５月	７日	（水）	理事会		●	総会資料最終確認	
	５月	28日	（水）	総会（懇親会）	●小体育室		定例総会・役員改選承認・懇親会	

資料⑤

会場の広さ
47×30m

養生シート
15×1.8m 3本　→　脚と畳
15×1.8m 3本　→　WWL

13×1.8　2本　→　WWL弓置く場所
5×1.8　2本　→　カゴ車の移動に使う？

養生シートなし

選手待機場所　椅子を的番ごとに８個（前に４個、後ろに４個）設置　※会場全体で120個あります

資料⑦

映像配信システムのご案内

もっと多くの人に
競技の良さを
知ってほしい！

地方に住んでいる
おじいちゃんと
おばあちゃんに
試合を見せたい！！

映像で
試合を振り返って
チームを強化したい！

友達の試合を
手軽にスマホで
観戦したい

運動会で
頑張る姿を
親戚に見せたい！

大会の様子を
記念に
撮影してほしい

会場が遠くて
見に行けない…

　このような声に応え、大会や練習の様子を撮影し、専用ホームページで映像を視聴することができる「映像配信システム」を試験導入しました！
　都立スポーツ施設で大会や練習等を予定されている団体の皆様は、現在無料でご利用いただけますので、ご興味のある方はご連絡ください！！

① カメラによる撮影
※使用カメラは、競技特性や撮影環境に応じて決定します。
撮影中は、基本的にスタッフは常駐しません。

②専用 HP(とりすぽ ch) や Youtube で配信
※いずれの配信についても、パスワードの設定や、公開方法の選択により、閲覧者を限定することが可能です。

【登録不要・無料】

お手続きは撮影申請書の提出のみ！撮影から配信まで、映像配信担当で行います。

【問合せ先】 東京都スポーツ文化事業団
映像配信担当
video-streaming@tef.or.jp

ご利用の流れ

利用詳細の確認

① 施設利用打合せなどで、撮影希望をお伝えください。
② 映像配信担当に撮影申請書をご提出ください。
③ 必要に応じて、別途映像配信担当と打合せ、
事前確認等を行います。

当日

① カメラ設置、撮影対応等は映像配信担当が行います。
② 撮影した動画は、専用 HP(とりすぽ ch)や Youtube で、
リアルタイム配信・後日配信で閲覧していただくことができます。
※ 配信を行わず、撮影した動画の URL をご提供することも可能です。

配信イメージ（とりすぽ ch.の場合）

①大会等を選択

※パスワードありの場合、
個別ページに遷移する前に
認証が必要です。

②各大会等の個別ページに遷移

③試合映像を再生

資料⑬

２０２３年１２月２日

東京都アーチェリー協会　理事長　殿

港区アーチェリー協会
理事長　大川　訓弘

都ア協開催の競技会における審判員等の待遇改善の要請について

標記の件、改善の要求を致しますので、来年度からの実施のご検討をお願いいたします。

改善要請内容

都ア協が開催する競技会に動員される審判員、及び開催スタッフに対し、拘束時間に見合った謝金への大幅な増額と交通費の支給を要求いたします。

理由

①　東京都の最低賃金が時給１１００円を超える中、審判員等への謝金が５０００円というのは余りにも低い。審判員、競技会開催スタッフへの謝金は、競技会開催に必要なコストであり、その費用は受益者である競技会参加者の参加費用より充当されるべきものと考えます。増額することにより審判員、スタッフの参加者も増えるのではないかと推測します。

②　審判員等のより積極的な参加を促すためにも、審判員等への往復の交通費支給は不可欠です。例えば夢の島で競技会を行う場合、現状では近隣の方しか協力を望めません。交通費の支給により西部地区の方の協力も得やすくなると考えます。交通費支給も競技会開催に必要なコストと考えます。

以上、ご検討をお願いいたします。

資料⑩

東京都フィールド大会　競技上の注意（２０２３/11 版）

１．　この競技は『全日本アーチェリー連盟競技規則　２０２２～２０２３』
および東京都アーチェリー協会の『競技運営安全管理規定』を適用します。

２．　前半終了後、および後半ユニット終了後、クラブハウスに戻ってくるときは、原則巡行し、審判員の誘導がないかぎり、逆進しないでください。

３．　競技進行時間について、前半・後半ユニットそれぞれ、２時間 15 分を　目途に、行射・移動するように、ご協力をお願いいたします。
　本日の前半スタート時刻は【　　時　　分　】ですので、
　後半ユニットのスタート時刻は【　　時　　分　】を予定しております。
前半に時間がかかってしまうと、休憩時間が短くなってしまうことをご了承ください。
　また、競技前半に、進行が著しく遅いグループがある場合、競技委員長・審判長が判断し、競技後半に審判員をコース内に配置、もしくは、該当　チームに同行することがあります。その際、時間計測し、競技規則どおり警告、最高点削除することもあります。

４，　競技終了後に、確認用の成績を ianseo.net 上に発表し、異議申し立ての時間を設けます。異議申し立て時間終了後の得点に関する疑義は、一切　受け付けませんので、選手の皆様はご注意願います。

選手の皆さん、本日は頑張ってください。

資料⑪

競技上の注意（案）

1. この競技は『 全日本アーチェリー連盟 競技規則 2022～2023』および東京都アーチェリー協会の『競技運営 安全管理規程』を適用します。
2. 競技会場に危険ゾーンを設けています。
   手前の防矢ネットを越えて 壁などへ矢を射ちこんだ選手には、審判長または競技委員長より即刻 競技続行禁止を伝えます。
   危険ゾーンに射ちこまなくても、度々的を外す選手、あるいは引き分けの際、矢先が上を向いていて、注意しても 引き方に改善が見られない選手にも、同様に 競技の続行禁止を伝えますので、ご注意ください。
3. 練習は3射90秒で2回行います。
4. 行射は3射90秒で、AB 立ち-CD 立ち矢取り、 CD 立ち-AB 立ち矢取りの繰り返しで行います。
5. 用具故障等による補充矢を行射する時間は 3射3エンド以内とします。
6. 競技終了後に確認用の成績を発表し、異議申し立ての時間を設けます。
   異議申し立て時間終了後の得点に関する疑義は一切受け付けませんのでご注意ください。

以上 競技上の注意でした。

資料⑭

2023 年 11 月 28 日

東京都アーチェリー協会
理事長 松村 晃志 様

関東学生アーチェリー連盟
記録委員長 岩本 春那

2024 年度関東学生アーチェリーインドア個人選手権大会における ianseo 機材借用のお願い

平素は関東学生アーチェリー連盟の活動に関して格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当連盟では、2024 年度関東学生アーチェリーインドア個人選手権大会の開催を 2023 年 12 月 23 日(土)、12 月 24（日）に予定しております。
当連盟には、本事業を開催するための ianseo 機材が不足しております。そのため、東京都アーチェリー協会様より ianseo 機材一式をお借りしたく存じます。
貴協会には大変なご迷惑をお掛け致しますが、よろしくお取り計らいございますようお願い申し上げます。

記

事業名 ：2024 年度関東学生アーチェリーインドア個人選手権大会
日程 ：2023 年 12 月 23 日 (土)、12 月 24 日(日)
場所 ：BumB 東京スポーツ文化館　メインアリーナ
依頼事項：POE、ルーター、白黒プリンター、LAN ケーブル 50m、
三脚の借用

以上